

令和4年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立南小学校
実施日	令和5年2月21日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	南小評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○校長の学校経営方針をもとに、「笑顔・感動・花いっぱい」の夢道場・南小の実現のために、教職員がチームで取り組み、大きな成果を得た。 ○学校運営協議会を定期的に開催し、よりよい教育活動について検討し、改善策を講じながら、特色ある学校づくりを行うことができた。 保護者評価「学校教育への満足度」AB評価98% 全教職員が、日々教材研究に励みながら、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、実践している。 保護者評価「わかる・できる授業」項目AB評価97% 児童評価「授業のわかりやすさ」項目AB評価96%	A	・明確な学校教育に対する運営構想がデザインされ、その効果が現れている。 ・学力や子供たちの様子にレベルの高さを感じられる。それを証明するデータ分析も明確になされている。 ・校長を始めとした凡事徹底の精神が学校全体に行きわたっている。 ・学校経営方針をもとに、環境の変化にも対応しつつ、児童主体の教育活動に全ての先生方が取り組んでいると思う。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○不審者情報等の情報はマメールで周知し、安全意識の啓発を図った。 ○学校ホームページに、防犯通報やネットトラブルの最新情報を常に更新し、保護者の安全意識の啓発を図ることができた。 ○避難訓練で、児童の避難経路を着実に把握し、安全面確保を図った。また、引き渡し訓練を実施し、緊急災害時の対応について確認できた。 保護者評価「学校の安全面に対する配慮」項目AB92%	A	・事故やトラブルはほとんどなかったと認識している。大きな成果が得られている。 ・マメールの活用は効果的で評価に値する。 ・登下校時の安全対策の実施、保護者と先生方との連携ができています。 ・防災マニュアルの定期的な見直しは不可欠である。今後も引き続き改善を重ねることを望む。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	○会議を精選し、会議時間を1時間以内とするなど、効率化を図ることができた。 ○教職員が働きがいを感じながら、教育活動を展開できた。 ○各教科・領域の内容の精選を行っている。 ○子供のための時間(教材研究や教材づくり)に充てられる時間をつくる必要がある。また、IT化できることを検討し、効率化を図っていく。	B	・限られた時間の中で、よく努力されていると思う。 ・坂戸市の代表として、他の学校のロールモデルになるような働き方改革をこれからも意識して続けてほしい。 ・働き方改革の必要性はわかっているが現実とのギャップに順調に進まないことや時間が取れないことが多いのではないだろうか。 ・会議時間の短縮等、効率化の努力は評価できますが、教材研究等、子供のための時間をさらに拡充していただきたい。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	○研修や教材研究を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、学力が大きく向上した。 ○学年又はブロックで授業を見合いながら、授業力向上を一人一人意識している。 保護者評価「わかる・できる授業」項目AB評価97% 児童評価「授業のわかりやすさ」項目AB評価98% 各学力調査結果では、県・坂戸市平均を大きく上回っている。	A	・授業参観の際に、授業に対する各教師の工夫を感じることができた。 ・学校評価データに成果が表れている。 ・児童の学力の高さに敬服する。効果的に工夫された授業の賜物である。 ・授業参観をさせていただき、分かりやすい授業の実際を高く評価したいと思う。
	5	教員は、豊かな心を育て授業の充実を図っている。	A	○人権週間における人権プログラムの活用やあたたか言葉の実践を学校・家庭と連携しながら取り組み、児童の心を育てた。 ○道徳科においても、日々の授業で心を育てるとともに、家庭で教材を読んで、考える家庭学習を取り入れた。 保護者評価「豊かな心の育成」項目AB評価95% 児童評価「友達との関わり」項目AB評価98% 児童評価「教師との関わり」項目AB評価96%	A	・授業参観で子供たちが伸び伸びと発言しており、充実している。 ・児童の心がよりよくなったように、日々気を配ってほしい。 ・教員・保護者及び児童評価のいずれも高いことはA評価に値する。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取組んでいる。(市共通項目)	A	○全ての学年が学習に集中して取り組み、落ち着いている。 ○県が示す「規律ある態度」の育成を積極的に行い、学習に取り組む態度や生活態度のよいものとなった。 規律あるアンケート調査 AB93% 児童評価「学習への一歩懸命さ」項目AB評価95%	A	・授業に対する真剣さが伝わる。 ・学習に集中して取り組む態度は継続してほしい。 ・授業参観で児童の様子を拝見し、集中度の高さと積極性が印象的であった。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	○事例をもとに、様々な教職員事故等についての研修を行い、事故防止の徹底に努めている。 ○報告・連絡・相談を徹底し、チームでの対応をしっかりと行うなど、風通しのよい職場になっている。 倫理確立委員会 13回実施 教師の同僚性がとても高く、お互いに支え合う風土がある。	A	・校長・教頭・教職員のみならず一体化された共通認識のもとで、学校運営がなされていると感じる。 ・風通しのよい職場づくりが徹底されている。 ・良い環境、クリーンな状況を継続してほしい。 ・教員の自己評価を全面的に支持する。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	○家庭との連絡を密にし、保護者に児童の成長等を伝えたり、良さを認めたりすることで、信頼関係を着実に築いている。 ○保護者面談を計画的、効果的に実施している。 保護者評価「一人一人の児童を大切にしている」項目AB評価96% 保護者評価「学校への相談のしやすさ」項目AB評価93% 児童評価「教師との関わり」項目AB評価97%	A	・保護者・児童共に満足度が高く、学校に行くのが楽しいという児童が多いことは先生方の努力の結果である。 ・南小学校の誇りである。 ・家庭との連絡を今後とも、よりよい信頼関係の構築に努めてほしい。 ・保護者評価と児童評価の高さは教員の努力を伺わせるものだと思える。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	○交流学級、学年における個々の児童理解と職員への周知を図っている。 ○特別支援教育の視点を生かした学級経営・授業づくり研修を行い、ユニバーサルデザイン的な視点での環境づくりと授業づくりを行うことができた。 教室環境改善100%	A	・授業参観時に子供一人一人の状況に応じて丁寧な授業が行われている様子を確認した。 ・特別支援教育体制の充実が重要な課題である。よく努力されていると思う。 ・個々の児童への対応がきめ細かいと思う。それが学級経営にも通じていると思う。 ・課題を明確にできることは現状分析ができていない証である。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	○学校応援団による環境整備(花・図書室)が充実している。 ○教材の整備を着実に進め、学びを深めることができた。 ○市教委と連携し、様々な修繕を着実に進め、事故防止に努めた。 ○不要物を計画的に廃棄し、校内環境の整備を図った。 ○毎月の安全点検により、修繕等を計画的に行った。 保護者評価「校内外の学習環境の整備」項目AB評価98%	A	・教育環境改善のための施策や老朽化した設備の修繕は徐々に進められている。 ・教育環境の整備にも心がけられているよう評価に値します。 ・環境の充実や校内整備は学校運営上、安全を確保できるものと思うので、継続してほしい。 ・各種整備の積み重ねは大変結構である。保護者評価も高く、成果が表れていると思われる。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	○ホームページを全面リニューアルし、各種便りや学校の教育活動について発信し、さらには、防犯通報やネットトラブル情報、学力向上シート等、様々な情報を発信し、家庭・地域との連携を図った。 ○学校行事や授業参観、校外学習等、様々な活動を行い、保護者に公開することで、児童の成長の様子をつたえることができた。 保護者評価「地域に開かれた学校」項目AB評価97%	A	・見守り活動が手薄になっているところがあるので、改善が必要である。 ・南小はやはり内容的にも充実しており、地域との連携に貢献していると思う。 ・夢道場・南小だけの情報の質・量共に日本一だと思う。日本全国の方にも読んでいただきたい。 ・夢道場・南小だけでなく学校の様子がよくわかり、保護者や地域にも伝わっている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	A	○図書ボランティアや環境ボランティアの活動が充実し、連携を図りながら、より良い教育活動を展開することができている。 ○筑波大学附属坂戸高校と連携し、体験活動(2年:生活科)を充実させた。また、ゆうちよ銀行職員による金融教育(1・3・5年)やオリンピック選手による講演等、ピースキャラバン(埼玉県平和資料館)による、国語及び総合学習の講演等、地域人材を有効に活用しながら、児童の学習を深めることができた。	A	・ボランティアの人々との連携は、地域の人々の学校教育への関心を高めることにつながっている。 ・ボランティアの方々との連携により、教育活動へのよりよい効果が期待できる。 ・図書ボランティア、環境ボランティアが地道な努力を続けてくださっていることが伺える。これからもご協力をお願いしたい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	○ノーゲームデー、家庭学習チャレンジ週間を小中共通して実施した。 ○夏季休業中に小・中連絡会を実施し、児童の様子や課題、連携の在り方について検討した。小中合同の授業参観を実施し、お互いに授業を見合うことで、児童理解やよりよい授業づくりについて検討することができた。 ○卒業した児童の情報交換や小学校で身に付けさせるべき内容の共有が課題である。	B	・義務教育期間を通しての達成目標について大きな視点での共通認識を持つことが必要である。 ・コロナ禍ではあるものの、小中一貫の視点で可能な範囲で取り組まれていた点は評価に値する。 ・児童生徒はもとより、家庭にも協力してもらういながら進めていく。 ・重点課題をさらに明確化し、到達目標を一層具体化することが必要である。